

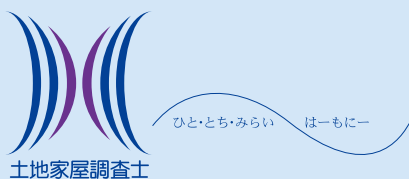
神 調 報

shin cyo hou

春号

2・3・4

2015 No.425



ひとりとごと

『新・相棒』

年明け早々、長年に渡り頑張ってくれたトータルステーションとデータコレクターが老朽化及び器械の不具合により、残念ながら勇退することとなり新規機種を購入致しました。新規機種の性能については、勇退した器械が10年以上も前の製品の為か、比較すると特にデジタル化が顕著に進化したと感じました。たとえば求心望遠鏡が無くレーザーポインターのみで器械点の鉤を目視しない、円形気泡管及び托架気泡管もデジタル表示、水平・鉛直固定ねじが無い等々…。慣れないため器械設置の際には不安が募り、求心望遠鏡を覗いてみたい欲求に駆られてしまい、器械を着脱し従来の一素子を載せ替えて実際に目視で確認をしてみる始末。当然整準は合っており、「おー！」と一言、感動してしまいました。また観測時にレーザーポインターを常時点灯させ、手元の人と観測者の双方が視準点を確認できる事など作業はしやすいと感じました。

データコレクターはこれまた優れもので観測と同時に座標計算ができ、パソコンの測量ソフトをそのまま直結し観測をしているようでした。事務所へ戻ってからも、そのまま取り込んで計算いらず。至れり尽くせりで手間も省けこれは楽になったなとまた感動！ただし従来色々確認をしながら行ってきた事がここまで自動でできてしまうと、どこかで少しミスをしていてもそれに気づかずに進めてしまい、後々大変な事になることもあるかと思えます。(実際、使い始めの3現場は不安で古い器械で再測量している始末)点検測量や計算の再確認の必要はあると思いました。

この10年ですばらしく進化した測量機器やCADソフト。使用する自分はその進化に見合うほどとは行かないまでも、少しは進化しているのか？いや、自分も10年前よりは比較できないほど…と、信じています。

勇退した器械達と同様にこの新しい相棒と長くつきあっていけるよう、知力・体力共に日々鍛えていかなければ。相棒さん、これからもよろしくお願いしますね！

(川崎支部広報員 深瀬 光正)

表紙

『真鶴半島』

写真・文 県西支部広報員 小田 靖

神奈川県最西端に位置する私の地元、湯河原町の城山から真鶴半島を撮影しました。撮影箇所の標高は501mです。

大昔、溶岩が海に流れ込みできた半島ですが、上から見るとよくわかる気がします。あくまで気がするだけです…。

目次

土地家屋調査士倫理綱領	
1. 使命	不動産に係る権利の明確化を期し、 国民の信頼に応える。
2. 公正	品位を保持し、公正な立場で 誠実に業務を行う。
3. 研鑽	専門分野の知識と技術の向上を図る。

公嘱だより	2
政治連盟レポート	3
弁護士及び土地家屋調査士の紹介等に関する協定調印式	4
葉山町町議会議員勉強会	5
外部講師講演会	6
県立向の岡工業高等学校出前授業	8
県立小田原城北工業高等学校出前授業	9
開業ガイダンス	11
よこすか産業まつり	13
厚木市少年サッカー大会へ土地家屋調査士杯	15
調査士ねっとわーく	16
新入会員挨拶	18
訃報	20
編集後記	22
会員異動	

会務日誌 (抄) <平成26年12月19日～平成27年3月27日>

12月	21日 埼玉土地家屋調査士会新春交流会(鈴木副会長)	25日 第6回理事会(理事会構成員23名、監事1名)
19日 関ブロ内日調連役員との打合せ (岩倉会長、海野日調連理事)	21日 第7回業務部会	3月
24日 登記相談会1件(下濱相談員)	21日 第6回法学研修	3日 神奈川県大規模災害対策士業連絡協議会 シンポジウム(鈴木副会長、大竹部長、 本橋部長、市川次長、尾上理事、高杉理事)
24日 土地家屋調査士試験合格証交付式 (岩倉会長、大竹部長、佐川部長)	23日 第5回理事会(理事会構成員23名、監事1名)	4日 登記相談会2件(関野相談員)
25日 第8回総務部会	23日 第7回綱紀委員会	5日 第3回注意勧告理事会
25日 第8回財務部会	24日 湘南第二支部賀詞交歓会(朝岡副会長)	5日 第12回常任理事会
1月	24日 第6回研修運営委員会	7日 関根一三氏黄綬褒章受章を祝う会 (海野名譽会長、岩倉会長)
6日 平成26年度 神奈川県士業団体 連絡協議会会長会(岩倉会長)	27日 第3回制度対策特別委員会	9日 第7回研修運営委員会
7日 登記相談会3件(石井相談員)	28日 登記相談会3件(八木相談員)	9日 大都市における登記所備付地図作成作業 に関する説明会(岩倉会長、大竹部長、 石井部長、中川部長、下濱理事)
9日 第10回常任理事会	28日 第7回法学研修	11日 第11回財務部会
9日 第2回注意勧告理事会	29日 千葉県土地家屋調査士会賀詞交歓会(岩倉会長)	12日 F Mやまと ラジオ出演(千田委員、田中委員)
9日 部長連絡協議会	29日 杉山県議県政報告会(石井部長、上田理事)	13~15日 第10回土地家屋調査士特別研修 集合 研修・総合講義
9日 湘南第一支部賀詞交歓会(鈴木副会長)	30日 横浜弁護士会との協定調印式(岩倉会長、 鈴木副会長、大竹部長、中川部長、佐川部長、 市川(栄)理事、高杉理事、尾上理事)	17日 無料登記相談相談員、センターかながわ 相談員・調停員研修会
9日 一般社団法人 神奈川県建築士事務所 協会賀詞交歓会(朝岡副会長)	2月	18日 登記相談会3件(藤野相談員)
9日 神奈川県司法書士会賀詞交歓会(岩倉会長)	3日 葉山町町議会議員勉強会	18日 第10回研修部会
13日 東京地方税理士会賀詞交歓会(鈴木副会長)	4日 登記相談会3件(大野相談員)	18日 第11回総務部会
14日 第5回法学研修	6日 市川藤沢市議報告会(石井部長)	20日 神奈川県公共嘱託登記土地家屋調査士 協会定時社員総会(岩倉会長)
14日 第2回全国会長会議(岩倉会長)	6~8日 第10回土地家屋調査士特別研修 基礎研修	21日 中村秀紀氏黄綬褒章受賞記念祝賀会(海野名譽会長)
15日 第6回ADR・筆界特定・境界鑑定推進委員会	7日 木村県議県政報告会	21~22日 平成26年度測量技術研修(初級コース)
15日 第9回総務部会	(岩倉会長、石井部長、上田理事)	23日 法務局長転任挨拶(岩倉会長、鈴木副会長)
16日 平成27年三会合同新春賀詞交歓会(鈴木副会長)	9日 第6回会館管理委員会	23日 第4回支部長会議
16日 平成26年度秦野国県市合同行政相談所	10日 各公嘱協会との連絡協議会(岩倉会長、 鈴木副会長、朝岡副会長、大竹部長、石井部長)	24日 第7回理事会(理事会構成員23名、監事1名)
17日 厚木市少年サッカー大会	10日 第11回常任理事会	25日 登記相談会3件(奥田相談員)
20日 第8回研修部会	12日 第1回選挙管理委員会	25日 第7回ADR・筆界特定・境界鑑定推進委員会
20日 神奈川県行政書士会平成27年新年賀詞 交歓会(中山副会長)	13日 第5回広報部会	26日 第9回業務部会
20日 第4回事故処理委員会	14日 市川哲郎氏黄綬褒章受章を祝う会(岩倉会長)	27日 第4回編集会議
20日 第9回財務部会	17日 第10回財務部会	27日 第6回広報部会
20日 東京土地家屋調査士会賀詞交歓会(岩倉会長)	18日 登記相談会4件(清水相談員)	
20日 一般社団法人 神奈川県測量設計業 協会賀詞交歓会(朝岡副会長)	18日 第9回研修部会	
21日 登記相談会2件(市川相談員)	18日 第8回業務部会	
	18日 第10回総務部会	
	24日 平成26年度第2回会員・一般研修会	
	25日 登記相談会4件(関田相談員)	

公 嘱 だ よ り

神奈川県公共嘱託登記土地家屋調査士協会

平成27年度不動産登記法第14条作成作業

小雨の降る寒い2日間であった。3月7日(土)・8日(日)に午前と午後の2回に分けて、横浜市南区永田地区センターの体育館において不動産登記法第14条第1項地図作成作業の説明会を行った。足元の悪い中、地図混乱地区の解消に向け大勢の参加者が熱心に説明に聞き入っていた。

「不動産登記法第14条地図ができるまで」

- (1) 地区名 横浜市南区六ツ川2丁目地区の一部(B地区)
 - (2) 面積 約2.24km²
 - (3) 筆数 約1,762筆
- 計画画機関である法務局が、国家基準点を基礎として、各土地の筆界(隣接する土地の境界)を測量し精度の高い新しい地図の作成について説明し、作業機関である公嘱協会が測量作業について説明した。
- 1 調査素図等の作成(平成26年12月から平成27年2月)
 - (1) 作業工区内の権利調査及び地積測量図と道路台帳・査定図の調査。
 - (2) 上記の調査に基づき調査素図(地権者等の記入)の作成。
 - 2 基準点測量(平成27年1月から3月)
 - (1) 1月に3級基準点4点・4級基準点112点の選点と設置作業。
 - (2) 2月にGPSによる3級基準点の観測とTSによる4級基準点の観測を完了。
 - (3) 3級基準点については、測量成果の検定を受け検定書を受領。
 - (4) 4級基準点の計算を終了し現地測量の準備が整った。
 - 3 作業準備(平成27年3月)
 - (1) 説明会の開催
 - (2) 関係官公署との打合わせ。
 - 4 筆界点調査・現況測量(平成27年3月から5月)
 - (1) 調査素図に基づき現況の地目や所有者の

氏名・住所等の確認。

- (2) 現地の境界標に基づき各筆の現況測量。
- 5 一筆地立合調査(平成27年6月から8月)
 - (1) 全ての土地について、所有者またはその代理人等の立合により、筆界点の確認を行う。
 - (2) 雨天でも決行する。
- 6 一筆地測量(平成27年8月から10月)
 - (1) 筆界点の確定測量
- 7 面積計算・地図作成(平成27年10月から11月)
 - (1) 一筆ごとの面積計算と縮尺500分の1の地図の作成。
- 8 縦覧・異議申立て(平成27年12月)
 - (1) 地図の原図及び記録される登記内容(地積等の一覧表)の縦覧。
 - (2) 記録内容に異議のある場合は、申出ができる。
- 9 登記(平成28年3月)
 - (1) 作業の結果、地目や面積が登記記録と一致しなくなった土地について、地目や地積の変更・更正登記を行う。
 - (2) 新たな登記記録は、横浜市南区役所に報告。

以上がこれから始まる平成27年度の地図作成作業の概要です。

横浜地方法務局の担当職員及び(公)神奈川県公共嘱託登記土地家屋調査士協会の5班体制約15から20名の社員は、去年のA地区の筆界未定率「ゼロ」を目標に決意を新たにしました。



政治連盟レポート.....

神奈川県土地家屋調査士政治連盟

官公署の公開情報の取扱改善

現在、登記所からの要請もあって地元市の地籍調査の図面情報を私の支部で調査しています。

折角市役所で管理していても地籍調査の図面情報が活かされておらず、業者が地籍調査の未送付地区の資料を無視して境界判断をするため、登記上の問題が発生しています。

これを解決するため支部で現状の調査を行い、市役所担当課の文書照会の手続きを明確にし、本会ホームページにも公開しました。

さらに土地区画整理についても同様の問題が発生しており、担当するまちづくり課でも市が有する資料が公式資料でなく更新もされていないため参考資料の状態にあると誤解して公開に後ろ向きの状態です。

市民の財産として重要な情報が的確に管理されていない現状は早急に改善されなければ我々土地家屋調査士の業務環境に有害です。

市民が利用する情報は、便利に使える事で初めて効果を発揮するものです。外部に発行する文書で保管した文書を単に複写して発行する状態であるなら、少なくとも文書スキャンして電子化して印刷発行の処理方法に変えれば、拾い出しの時間が短縮でき、保管スペースが不要になります。それ以上に市民サービスの向上につながります。

このような提案を官公署に行う事も該当分野の専門家として必要なことですが政治連盟も含めて具体的提案手段を持っていません。

ロボット特区の話がありますが、そのた

めには、ロボットが扱えるように紙文書や紙図面の電子化が必須です。既に、いくつかの市役所では、同様の証明発行が自動販売機のように“ロボット化”が済んでおり、職員はノートタッチで発行が完了する仕組みが稼働しています。

ロボット化する事で職員の負担が軽減され、市民の待ち時間が短縮され、発行間違いが解消され、紙文書の保管スペースが不要となり、かつ書類の傷みも防げます。

土地家屋調査士が専門とする分野は市役所が扱う事務の一部でしかなく、他の分野との連携により改善が促進されるものと思えます。隣接職種の専門家にも呼びかけて、不動産の流通保全に貢献して行く解決策を探ることが我々に課された課題です。

(文責：政治連盟 甘利 雅雄)

弁護士及び土地家屋調査士の紹介 等に関する協定調印式

平成27年1月30日の金曜日、横浜弁護士会館5階の大会議室で弁護士及び土地家屋調査士の紹介等に関する協定調印式が行われました。この協定は神奈川県土地家屋調査士会と横浜弁護士会とで相談員を相互に紹介することなどを目的としたもので、例えば研修会や相談会などを開催する場合に、講師や相談員を紹介しあう、などの活用方法を想定しています。

当日は雪のち雨の悪天候でしたが、土地家屋調査士会と弁護士会の双方から関係者が出席し、緊張感の中それぞれの会長による協定

書への署名捺印が行われました。また報道関係者も取材に訪れ、関心の高さが伺えました。

神奈川県土地家屋調査士会では無料登記相談会などを実施して、土地の境界や表示に関する登記についての相談にお答えしていますが、相談内容は土地家屋調査士の業務範囲を超え、多岐にわたることも少なくありません。弁護士と連携することで対応できる相談の範囲が広がるものと思います。

(記事・写真 広報部長 中川 裕久)



葉山町町議会議員勉強会

最近テレビなどでしばしば取り上げられるため、ご存知の方も多いと思いますが、適切な管理がされず放置された空家が全国的に問題となっており、また今後も増加すると予想されています。この空家問題を解決するため昨年『空家等対策の推進に関する特別措置法』(注1)(以下、空家対策特別措置法)が国会で可決成立しました。

以前から空家対策のための条例を独自に制定している自治体はありましたが、空家対策特別措置法は空家の撤去や跡地の利用、空家そのものの活用などをより積極的に進めることが目的で、市町村は空家対策計画の作成に努めるものとされ(第4条)、計画の作成に当たっては協議会を組織することができる(第7条)、と定められています。なお、協議会は市町村長と地域住

民、市町村議会議員のほか学識経験者などで組織するとされており(第7条2項)、また同法には境界を明確にする手続を設ける検討をすること、との附帯決議(注2)もなされています。

神奈川県土地家屋調査士会ではこの協議会に土地家屋調査士が参加することにより調査士の知識と経験を生かすことができるのではないかと考え、平成27年2月3日の火曜日に、葉山町町議会議員の方々と勉強会を開催しました。この勉強会は、葉山町に事務所を構える神奈川県土地家屋調査士政治連盟の平田副幹事長が町議会議員に打診し設定したもので、当日は多忙のなか2時間の時間を割いていただき、5名もの町議会議員の方々に参加していただきました。

空家対策には所在、現況を把握する調査のみならず、所有者の確定など権利に関する調査も必要になります。また、附帯決議にあるように、例えば境界を見誤り隣地の塀を取り壊してしまった、などのトラブルを防ぐためにも境界を明確にする作業は重要であると思います。

土地家屋調査士は地域密着型の職業のため、地域の事情に精通している会員も多くいます。また日々行っている土地境界や建物の調査測量の経験、それと不動産に関する法律の知識を大いに生かすことのできる分野なのではないでしょうか。

(注1) 『空家等』とは使用されていないことが常態である建築物又はこれに附属する工作物とその敷地のことで、立木や塀など土地の定着物も含まれます。今回の法律成立で「特定空家」の定義がうまれました。

(注2) 空家等対策の推進に関する特別措置法案に対する附帯決議

政府は、本法の施行に当たり、隣地所有者との土地の境界紛争を未然に防止するとともに跡地の利活用の推進を図る観点から、空家を取り壊し更地にする際には事前に空家が所在する土地の境界を明確にする手続を設けることについて、必要な検討を行うこと。

(記事・写真 広報部長 中川 裕久)



勉強会には5名の葉山町町議会議員(左)と神奈川県土地家屋調査士会から8名の会員(右)が参加。



参加して下さった議員の方々。左列奥から笠原俊一議員、金崎ひさ議員、横山すみ子議員、田中孝男議員、荒井直彦議員。議員の皆様への地域に対する愛着が感じられる勉強会でした。お忙しい中ありがとうございました。



遠くに富士山を望む会議室からの眺望。内陸部に住む筆者にとっては海のある葉山町は憧れの地。県内でも人気の葉山町ですが、空家が問題になっているとはちょっと意外でした。

川崎市立川崎総合科学高等学校 外部講師講演会

神奈川県土地家屋調査士会広報部では川崎支部と協力し、平成26年12月10日の水曜日に川崎市立川崎総合科学高等学校で外部講師講演会を行いました。外部講師講演会というのは、川崎総合科学高等学校が定期的にさまざまな職業の社会人を招き生徒に話をしてもらふ、というもので、いわば座学のみの出前授業です。

毎年、高等学校を対象にした出前授業は行っていますが、実習作業のない出前授業はほとんどありません。以下に概要を示します。

【学校側からの要望等】

- ・ 講演時間は約2時間、対象生徒は建設工学科の1年生と2年生の約80名。
- ・ 2年生になると建築関係に進む生徒(建築コース)と土木関係に進む生徒(都市コース)に授業が分かれる。
- ・ 卒業後就職を希望する生徒は約3割で、他は専門学校と大学への進学。
- ・ 測量の授業としては平板測量、水準測量、三角測量、多角測量などを行っており、測量の知識はある。
- ・ 「資格取得を目指す生徒もいるため、日々の勉強のモチベーションにしたい。」というのが学校側の要望。

【事前のプラン】

- ・ 話が単調になることを防ぐため、講師一人およそ10分の持ち時間で各自が高校時代から現在に至るまでの学歴や職歴、土地家屋調査士を目指すきっかけなどを披露する。上田次長が司会進行を務め、全体のコーディネートを行う。
- ・ 建築関係を目指す生徒と土木関係を目指す生徒が混在しているため内容を土地家屋調査士業に限定せず、土木の話と建築の話を中心にし、土地家屋調査士との関わりなどについて話をする。

【実際の講演内容】

実施場所 川崎市立川崎総合高等学校(川崎市幸区小向仲野町5-1)

対象生徒 建設工学科 1年、2年生 76名

講 師 川崎支部 林健二副支部長、小西行長副支部長

広報部 中川裕久部長、上田尚彦次長

講義内容 9:30 集合

10:00 講師紹介 (5分) 学校側

10:05 開始の挨拶 (5分) 川崎支部 渡部清一支部長

10:10 **講演 1 (5分) 土地家屋調査士とは** (上田)

土地家屋調査士について簡単に説明

10:15 **講演 2 (40分) 自己紹介** (林、小西、中川、上田)

各自、土地家屋調査士になろうと思ったきっかけなどを紹介

10：55～11：05 休憩

11：05 講演3（15分） 開発と測量（小西）

開発行為（宅地造成）と測量や土地家屋調査士業務との関わりをなどについて解説

11：20 講演4（20分） 建築と土地家屋調査士（林）

建築に関する話をしつつ、土地家屋調査士との関係、土地家屋調査士の資格を持っていて良かったことなどを解説

11：40 講演5（15分） 資格取得のメリット（中川）

資格を取得することのメリットなどについて解説

11：55 質疑応答

終了の挨拶（5分） 土地家屋調査士会 朝岡道久副会長

その他のメンバー 三浦正樹広報部理事 取材

講演3では参考資料として実際の開発許可申請で使用した土地利用計画図などの図面を配布しましたが、「実習で自分たちが作図した図面と、プロが実際に描いた図面が比較できて生徒には良い刺激になったと思う」と学校側には好評でした。

座学のみのお出前授業は天候に左右されず、少人数で実施できるなどのメリットがあります。また今回、内容を工夫することによって長時間であっても話が単調になることなく実施可能であることが分かりました。この経験を活かして今後は大学をはじめ工業系高等学校以外の学校にも座学によるお出前授業を実施できればと思います。

（記事 広報部長 中川 裕久）

（写真 広報部理事 三浦 正樹）





神奈川県立向の岡工業高等学校 出前授業

神奈川県土地家屋調査士の広報活動の一翼を担い、土地家屋調査士のPRと地域への貢献を目的にして、川崎支部では平成22年度から神奈川県立向の岡工業高等学校で出前授業を始め、今回で、第5回目となりました。

都市工学コースの生徒を対象に、今年は11月18日の午後一番の授業時間に行わせて頂きました。例年のように二部構成で、最初に座学を20分間行い、その後校庭に出て、昨春に完成した新校舎をバックにして、1時間半ほど屋外実習をしました。

座学では、公図や登記簿、地積測量図を見せて調査士の登記業務を紹介し、屋外実習では、トータルステーションを使用して逆打ちの練習を行いました。26名の生徒が5班に分かれ、それぞれに支部会員が2名ずつついて、手本を見せながら、指導を行いました。多摩川の川原から吹き寄せる風は冷たかったですが、生徒た

ちは真剣に実習に取り組んでくれました。

後日、生徒が書いたアンケートを読ませて頂きましたが、概ね好評でした。

また、学校の先生方からは、実社会で働いている調査士に指導してもらう事は、生徒の学習意欲や動機づけをする上で有効だとの評価を頂いております。さらに昨年度から、都市工学コースだけでなく建築コースの生徒にも講義をお願いしたいとの申し出を頂いております。

この様に一定の評価を頂いているので、役所や議員の方々に、土地家屋調査士会は継続した地域貢献を果している団体だと胸を張ってアピールができると思います。

(記事・写真 川崎支部副支部長 林 健二)





神奈川県立小田原城北工業高等学校 出前授業

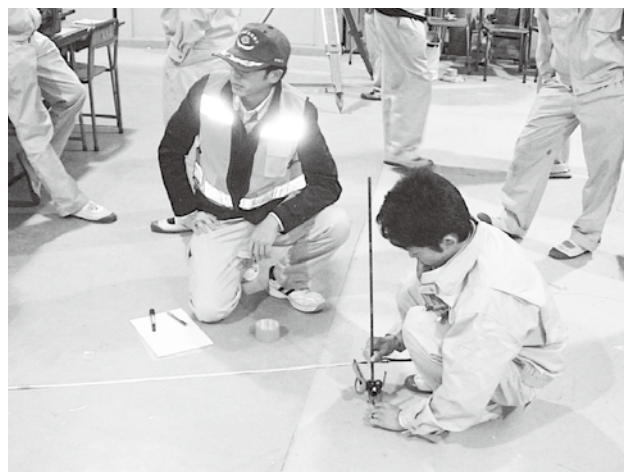
県西支部では、平成27年1月15日に神奈川県立小田原城北工業高等学校にて第6回目となる卒業を目前に控えた3年生を対象とした出前授業を行いました。毎年恒例となり今まで5回行っているという事もあり、会員14名の協力のもと、学校側との調整や実施に至るまでの準備等、スムーズに実施する事ができました。当日の天候は、神奈川県土地家屋調査士会出前授業史上初めての雨天でした。

第1部は教室で座学授業を30分、第2部は屋内施設にて4班体制で測量実習としてトータルステーションを使った逆打ち作業を全生徒に体験してもらいました。

第1部の座学授業ではいつの間にか筆者が講師を務めさせて頂くことになってました。最初の打合せにて配布された予定表の座学授業講師の箇所には、既に筆者の名前が入っていたのには驚きました。座学授業では、まずは土地家屋調査士という資格はどのようなものなのかを知って欲しいと思い、登記制度をなるべく分かり易く、他のシステムに置き換えたり実例を示しながら

説明しました。その後、資格取得後の仕事上での利便性を軽く説明し、建設科で卒業後に測量機器を扱う生徒が多いと聞いていたので、測量機器の進化について説明しました。昨年度も講師を務めさせて頂いたのですが緊張のせいあまり記憶がなく、今回も説明がうまくできたかどうか自信がなかったのですが、後述のアンケート結果で座学の授業を理解できたと回答してくれた生徒が多かったのが安心しました。

第2部の測量実習では生徒数27名で1班当たりの生徒が約7名に対し、講師が2～3名で実施しました。講師の会員は今まで複数回出



前授業の講師を経験された方が多く、測量機器の扱い方等、学生への説明に馴れていたのではな
 と思います。初めて扱う機械、細かい精度に四苦八苦していましたが、笑い声が多かったよ
 うに感じましたし、当初の予定時間より早く終わる班が多かったです。今回の逆打ち作業は雨天
 で屋内施設だった事もあり、1mピッチで直線を出してもらう作業を行いました。最後に最初
 と最後の点を直線で結んで確認してもらいまし

たが、誰々のが直線からはみ出てる等わいわい
 楽しそうでした。逆打ち作業が終わった班は、
 最新測量機器とGPS測量機器を講師の方から
 説明していただきました。最新測量機器は自動
 で動くので、それに驚いている生徒が多
 かったです。GPS測量機器は今回雨天の為、
 屋内施設でしたのでPCで衛星の配置等を見
 せる事はできなかったのですが、カーナビ等
 との精度の差をわかりやすく説明してもらいま

実習の最後にアンケート調査を実施し、結果は以下の通りでした。

座学授業の内容は理解できたか？

理解できた70% 半分は理解できた26% 理解できなかった4%

測量実習、作業内容は理解できたか？

理解できた78% 半分は理解できた18% 理解できなかった4%

現場作業班の講師の印象はどうだったか？

優しかった89% 普通11% 怖かった0%

将来の役に立ちそうか？

役に立つ59% わからない33% 役に立ちそうでない8%

土地家屋調査士という仕事を知っていたか？

知っていた12% 聞いたことはある44% 知らなかった44%

土地家屋調査士の仕事に興味を持ったか？

興味を持った37% どちらともいえない56% 興味を持たなかった7%

アンケート調査の結果をみて、出前授業でアンケートを取るようになってから初めて、土地家屋調査士という仕事を知っていたという生徒が複数人いて驚きました。また、将来の役に立つと答えてくれた生徒が6割近くいたので単純に嬉しかったです。アンケートに感想を記入してくれた生徒もいまして「自分の進学する学校が建築関係なのでとても勉強になりました」、

「忙しい中ありがとうございました」等書かれていました。

出前授業によって興味を持ち、将来出前授業を受けた事がある生徒が会員登録する事になればと期待します。また、前回も書きましたが次回行う出前授業の座学の講師が筆者ではないことに期待します。

(記事・写真 県西支部広報員 小田 靖)

土地家屋調査士試験合格者のための 開業ガイドンス

神奈川県土地家屋調査士会では平成27年1月24日の土曜日、午後3時から神奈川県土地家屋調査士会館で、昨年につき2回目となる開業ガイドンスを開催しました。対象者は昨年同様土地家屋調査士試験の合格者で、県内から21名、東京、千葉、埼玉など県外から7名(計28名)が参加しました。

なお、前回は研修部が主体になり企画、開催しましたが、今年は総務部が中心となって行い、合格証交付式で案内を配布すると同時にホームページで事前告知を行いました。

昨年との主な変更点は

- ・総務部だけでなく業務、研修、財務、広報の各部より役員が参加。
- ・役員を含めると前回より大人数となるため“車座形式”をやめ、通常の研修会などと同じ機の配置で開催。
- ・終了後に希望者のみで有料の懇親会を開催。などです。

参加者からの主な質問は

- ・測量機械の点検、調整、検定の費用はどの位かかるのか。
- ・会員でなくても研修会に出られるか。
- ・登録時に事務所を確認するとの事だが、その目的は何か。
- ・青調会と公共嘱託登記土地家屋調査士協会の目的や、加入するメリットは何か。
- ・「使用人調査士」とは何か。
- ・どういう所から仕事が来るのか。どこに営業すればよいのか。
- ・ADRの仕事はあるのか。
- ・開業に失敗する人はどのような人か。何が原因か。
- ・開業直後の1日のスケジュールはどんな感じだったか。
- ・仕事を手伝ってもらった場合の1日の日当の相場は。
- ・どこまで測量技術を身につければ開業に充分か。などでした。

また今回広報部では今後の参考とするため参加者を対象にアンケートを実施しましたが、その結果は以下の通りでした(抜粋)。

①このガイドンスをどこで知りましたか(複数回答あり)

- ・合格証交付式で配布された案内を見て 15名
- ・神奈川県土地家屋調査士のホームページを見て 8名
- ・【土地家屋調査士あっこたん】のブログを見て 7名

②あなたの年齢は

- ・20歳～29歳 1名
- ・30歳～39歳 12名
- ・40歳～49歳 12名
- ・50歳～59歳 3名

③土地家屋調査士試験に合格したのはいつですか

・平成26年(去年) 19名 ・それ以前 9名

④測定の経験はありますか

・ある 19名 ・ない 8名 ・未記入 1名

⑤自営業の経験はありますか

・ある 4名 ・ない 24名

まだ2回目ということもあり試行錯誤の段階ですが、開業を考えている方が抱えている不安や疑問を少しでも解消するため、今回の質問内容やアンケート結果を今後活用したいと思います。

(記事・写真 広報部長 中川 裕久)



開業に必要な機材について説明する本会役員と熱心にメモをとる参加者。
今回は車座ではなく、通常の机の配置に変更。

(前回の様子 <http://www.kanagawa-chousashi.or.jp/index.php/archives/5072>)



ガイダンス終了後に行われた参加者と本会役員との懇親会。
ガイダンス参加者28名の内、20名弱が参加。
質問攻めに合う役員や盛んに名刺交換を行う参加者が多数見受けられました。

横須賀支部



平成26年11月8日(土)9日(日)によこすか産業まつり2014が開催され横須賀支部も多数の来場者へのPRの為、参加致しました。

場所は記念艦「三笠」で有名な横須賀市・三笠公園で、8日(土)9時～16時、9日(日)9時～15時に行われました。

当初の天気予報は傘マークも出ており、屋外の為、雨だと客足が鈍り荒天だと中止になるの

で心配しましたが、殆ど雨も降らず約32,000人(主催者情報)もの来場者が来ました。

産業まつりは主催：よこすか産業まつり実行委員会(市経済部商業観光課)後援：神奈川県で、市内の事業者による自社製品、取扱い商品等のPR・販売のほか、地場産農産物や交流都市の特産品の販売も行われました。





土地家屋調査士会横須賀支部のブースは「杭を残して悔いを残さず」のキャッチフレーズのもと、境界石・境界プレート・境界鋏・調査士会ののぼり・測器サービス様の御協力により自動追尾トータルステーションを展示し、配布物としてリーフレット4種類(土地家屋調査士、境界問題相談センターかながわ、筆界特定制度を各1000部ずつ、境界標を守ろうを300部)土地家屋調査士会のネーム入りの鉛筆100セット(2本入)、両頭蛍光マーカー60本、ボールペン蛍光ペン50本とポップコーンをお客さんを集めるアイテムとして説明しながら配布をしPRを致しました。

正直興味のないお客さんも居たはずですが、支部単位でリーフレット計3300部を配布する

機会はそのようなにないと思うので「土地家屋調査士」の名前と業務内容をちょっとは知って頂いたかとは思いました。

配布・PRをしている中には、測量や境界に関して相談したいと言ってくるお客さんも居たりしましたし、トータルステーションに興味深く覗き込み器械の仕組みを聞いてくる方もおりました。

参加者がチームとして協力しながら、産業まつりに参加したので一体感が生まれたのもとても良かったと思えました。

初めての参加であった為課題も残りましたが、次回この様なイベントに参加する際の糧にしようと思いました。

(記事・写真 横須賀支部広報員 福島 誠)



県央支部 厚木市少年サッカー大会 土地家屋調査士杯



去る平成27年1月17日に少年サッカー「土地家屋調査士杯」が開催されました。

県央支部では例年小学2年生の少年サッカー大会に協賛しており今年で5回目となります。

昨年度は大雪の為中止となりましたが、今年は快晴のスポーツ日和でした。

子供達の一生懸命走っている姿を見てると、同学年の娘を持つ親として、娘にも何らかのスポーツをやって欲しい気持ちになりました。

折しも20年前の今日、阪神淡路大震災が起こった日であります。



年末の記事で、今後30年間に関東に起こる地震の確率が大幅に上昇した事を読みました。横浜市役所付近で78%に上昇しております。楽しそうに笑う子供達を毎年応援できればと切に願います。

(記事・写真 県央支部 播磨 誠司)



調査士ねとわく

紆余曲折(?)

湘南第二支部広報員 西野 稔

毎年、新しい土地家屋調査士が誕生する。誰もが通った道だと思うが、大変な受験勉強をし、真夏での筆記試験、予想不可能な面接試験、等々を乗り越え晴れて土地家屋調査士試験に合格した人たちのことを思うと、尊敬の念も感じる。そこで、改めて自身の土地家屋調査士試験に合格するまでの道のりを振り返ってみた。

土地家屋調査士資格との出会いは大学時代の土地家屋調査士事務所でのアルバイトだった。この時「将来は自分も土地家屋調査士になる」と確信した。ならば資格取得のために試験勉強を頑張ろう！とおもいきや、時まさにバブル絶頂期。遊びに忙しく資格試験の勉強といえば参考書をペラペラとめくる程度であった。当然、受験もしなかった。バブルの崩壊とともに就職。就職先は東京の航測関連の測量会社。近い将来の土地家屋調査士独立開業を胸に秘めつつ、仕事の傍ら、独学で勉強再開。しかし、仕事に忙殺されはじめ、参考書も何時しか部屋の片隅に追いやられほこりを被り始める。数年後、地元に戻り、地元の土地家屋調査士事務所でお世話になることを決心した。

地元の土地家屋調査士事務所では補助者をしてしながら、受験勉強のためのサポートをしてくださった。にもかかわらず、受験に失敗した。そんな中、30歳を目前に、「独立」したい気持ちのみが先立ち始め、悩んだ末、お世話になっていた土地家屋調査士事務所に無理を言って半ば強引に退職するかたちで、個人の「測量事務所」として独立した。

その後は暫く土地家屋調査士の受験もしなかった。しかし、不動産登記法の大改正が、もう一度、土地家屋調査士を目指す良いきっかけとなり、改めて一から勉強しようと決心した。その後は「受験勉強の神」が降臨したが如く、自身でも驚くほどの集中力で勉強をし始めた。自分の中ではこの1年が本当の意味の受験勉強1年目と称している(過去を忘れて...)。その年の受験は3点足らずで不合格だったが、もう少しで合格の自信もあったので、自称2年目もそのままの勢いで集中する事が出来た。模擬試験に参加し、常に上位をキープし、自信満々で自称2年目の受験本番を迎えた。受験地は早稲田大学。ここでハプニングがおきた。受験する教室を間違えたのだ。ギリギリで教室に飛び込み、気持ちを落ち着かせ、試験スタート。暫くしてある事に気づいた。土地の書式で、関係ない隣の土地の求積・作図をしていたのが判明したのだ。ガーン...大急ぎで座標を計算し直し、図面を訂正しまくり修正し、タイムアップ。結果は、1点足らずで不合格。

自称3年目。多少前回受験を引きずりつつも、年明けから何とか受験勉強再開。ただ、明らかに過去2年と違い、集中力も落ちペースダウン。この様な状態で臨んだ自称3年目。受験地は東洋大学。そして一番乗り。教室の座席が一番後ろの一番右の冷房が程よく効いた良い席だった。妙に落ち着いた。筆記試験の結果は、ほぼ完璧の合格。後日の面接試験は渋谷のとあるビルだったと記憶している。12月の合格発表は霞が関の法務省まで確認に行った。ダラダラとした受験勉強時代の数年間、集中した合格までの3年間。紆余曲折(?)様々な出来事の末、そ

してかなりの時を要してしまっただが、今、この資格を手にする事ができている。今でこそ言える、諦めなくてよかったと。

Facebook とアマチュア無線

横浜南支部広報員 小松崎 仁

いろいろな事情があって、長い間音信不通となっていた友人が何人かいます。中でも一番の友人だったTくんとは、2人で東北地方の無銭旅行をしてから実に43年という月日が経っています。何年か前ですがFacebookが実名での登録ができるということを知ったとき、まず思ったのは、古い友人、知り合いに会えるかも知れないという期待でした。当時既にmixiを利用していましたがmixiは実名が強制されていないので、実名で検索しても友人を見つけることは期待できません。mixiには出身校別のコミュニティーなどがあって、こちらで探しても友人は見つかりませんでした。その点Facebookは実名の登録が強制されているので、友人も登録するなら実名の可能性が高く、登録してくれれば見つかることが期待できると思いました。Facebookに登録し、思いつくままに友人の名前を検索していました。同姓同名の方がヒットしましたが住所などのプロフィールからかつての友人とは断定できず、連絡することなく月日が経っていきましたが、昨年9月にプロフィールがどんぴしゃりのTさんを見つけました。早速メッセージを送ったところ、まさか、君か、というメッセージが。そして数時間後に電話があり、間違いなく、探していた友人でした。彼は仕事に就くと数年間は国内にいたのですが、その後、ほとんど海外ばかりで30年以上日本にいなかったが、久しぶりに日本に戻ったので、特に目的も無くFacebookに登録をしたとのことで、私からの連絡に非常に驚いていました。それというのも、私は既にこの世

にいないという話を聞いていて、もう会うことはない、すっかり記憶から消し去っていたというのです。その後懐かしの秋葉原で再会。彼は、今も当時私たち仲間の趣味だったアマチュア無線を続けていて、コールサインは当時のままで、他の方が利用していなければ、私のコールサインも復活できるかも知れないというのです。私は何度か転居しているのですが、無線従事者の免許証と、開局時の申請書は後生大事にとっておいたはずですので、早速書類を探すと、開局時のものではないものの、設備を入れ替えた際の申請書副本が見つかりました。申請には通信機器を備えないといけないので、最小限の小型のトランシーバを利用することにして、申請。待つこと2ヶ月、昔のコールサインで再度開局することができました。T君は一戸建てに住んでいて、伸縮式のタワーと、八重洲の最高機種FTDX9000MPを使っているとのことですが、私の現在の住まいは集合住宅で、資金の余裕もないのでVHF帯の超小型トランシーバ、ホイップアンテナの構成、その上時間的な余裕もないことから、まだ初交信ができていません。当時、コリンズの無線機がほしかったのですが、バイトの収入しかないスネかじりの身では買えるはずもなく、ジャンクの部品を集めた自作booster、トリオTX-88A送信機、STAR SR-700A受信機、20mの自分で建てたパンザーマストにエモテータというアンテナ回転機を取り付けた21MHz帯5エレメント八木アンテナを使っていました。サラリーマンをやめてからは、何の趣味も無く、また、新しい趣味を持ちたいとも思っていなかったのですが、思いもよらず、T君と再会し、昔の趣味を再開したくなりましたので、上級資格を取得して、アンテナを立てるスペースを何とかして確保し、もう一度海外にも友を見つけられるような環境を作りたくなりました。Facebookに感謝です。

コールサイン JA1RTT

新入会員自己紹介



横浜中支部 金子 力也
神奈川県土地家屋調査士会に登録させていただきました、金子 力也と申します。

以前はコピー機のメンテナンス業務を行う企業で働いていましたが、ちょっとしたきっかけで今の仕事をすようになりました。

この仕事に係るまでは不動産登記や測量といった物事に一切触れることなく生きてきたため知識が全く無い状態からのスタートで、はじめの頃は失敗の連続でした。

現場では測量ミスを連発し、CADの操作も知識がないために無駄に時間がかかり、境界立会いで相手に説明を求められても上手く説明できずと一件の事件が終わるころには身も心もボロボロの状態でした。

数年経った今では一通りの業務はなんとかできるようにはなりましたが、それでも経験不足は明らかで、一事件もまだやっとの思いでどうにか仕上げるという状態です。

このような有り様で登録をするのは大いに不安を感じるころではありますが、今後も測量業務、登記業務およびこれらに付随する知識の向上を図りつつ先輩方よりご指導を賜りたいと思っております。よろしくお願いいたします。



土地家屋調査士を職業として
横浜南支部 渡邊 哲也
初めまして、この度登録いたしました横浜南支部所属の渡邊 哲也と申します。よろしくお願いいたします。

平成24年に試験に合格し、昨年12月に登録したばかりです。

私はこの土地家屋調査士という職業につくまでは内装関係の仕事をしていました。しかし40歳を過ぎて、何か資格をとってみようかな、と思うようになりました。仕事に不満は無かったのですが、新しいことにチャレンジしてみたくなったのです。

土地家屋調査士という資格を選んだのは、その専門性と特殊性に興味を持ったからです。数ある資格の中で文系である法律と理数系である測量計算、内仕事と外仕事、といったように相反するものが混在している資格というのはこの土地家屋調査士において他に無いと思います。

また、土地の境界や不動産登記といった社会性、公共性の高いものを扱うプロであるということも魅力であると思います。

試験は思った以上に難しく、大変ではありましたが猛勉強の末、合格することが出来ました。

実務修行中にお世話になった先生方には大変貴重な経験をさせていただき、大変感謝しております。この場を借りてお礼を申し上げます。

今こうして開業させていただき、ようやく土地家屋調査士としての一歩を踏みだそうとしていることを思うと身が引き締まる思いです。これからも資格の名に恥じぬよう、日々勉強、精進していく所存でありますのでどうか宜しくお願いいたします。



川崎支部 小泉 和俊

平成27年2月に登録させていただきました、川崎支部の小泉和俊と申します。

私は、東京会のほうで、約15年補助者として調査士業の経験をし、この度登録をいたしました。

私が土地家屋調査士を目指したきっかけは、親戚が福島で調査士業を営んでおり、子供のころ、夏休みなど遊びに行った際に、現場作業に連れて行ってもらい、実際に作業を見て、単純に『楽しそうな仕事』だと思ったことでした。

実際に調査士業に携わると法律知識、また、測量技術も必要であり、ただ単純に『楽しそうな仕事』ではありませんが、大変やりがいのある仕事だと実感しております。

まだまだ、勉強不足な点もありますが、不動産に係る権利の明確化に寄与するためにも、日々努力を怠らず、諸先輩方が築き上げたもの、品位を汚すことなく、誠心誠意、土地家屋調査士業務を行っていきたいと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



土地家屋調査士を職業として 選んだ理由

湘南第一支部 岩崎 英介

2015年2月に登録致しました、湘南第一支部の岩崎英介と申します。

私が土地家屋調査士を目指したきっかけは、建築士の友人の一言でした。

家業が工務店ということもあり、建築の専門学校を卒業後、建築士の資格を取得した私には当時、不安が拭えませんでした。将来、家業を継ぐことになった時、建築士資格だけで家族を養うだけ稼げるだろうか？と思ったからです。

そんな不安を打ち消したのは友人の一言でした。「土地家屋調査士で開業すれば、銀座で寿

司が食べられるくらい儲かる」とさらに建築士を取得済みであれば、午後の試験は免除されると友人から聞きました。すぐさま土地家屋調査士事務所の門をたたいたのは、今から10年以上前のことです。その後、数社の測量会社や土地家屋調査士事務所で修業をさせていただきましたが、知れば知るほど奥深く、また技術の研鑽もさることながら、立会での対応の柔軟性も求められるのだと実感し、たくさんのことを学び得ることが出来ました。

開業するにあたり地元の建設業者様へのご挨拶でお伺いした際に、生前の祖父のことを話してくださった方がいらっしゃいました。

「あなたのおじいさんは腕のいい大工でしたよ」とうれしいお言葉を頂き、「地域」、「人と人との世代を越えた繋がり」を再認識することができました。

今、私がここまで来られたのは、私だけの力ではなく、指導をしてくださった先生方、諸先輩の方々、応援してくれた父と母、独立をゆるしてくれた妻のおかげです。

工務店の社長である父、大工棟梁だった祖父の名に恥じぬよう技術の研鑽、人間的資質の向上に努め、みなさまに信頼される土地家屋調査士を目指す所存です。

応援していただいた、方々と一緒に銀座で寿司を楽しめる時が叶うように頑張りたいと思っております。

まだまだ右も左も分からない駆け出し者ですが、ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

訃

報

次の方々がお亡くなりになりました。
心からご冥福をお祈り申し上げます。



加 藤 泰 之 殿
(相模原支部)

平成26年11月30日 ご逝去(享年77歳)

表彰歴 東京法務局長表彰受賞



松 本 龍 平 殿
(川崎支部)

平成26年9月26日 ご逝去(享年75歳)



松 浦 孝 二 殿
(県央支部)

平成27年2月28日 ご逝去(享年66歳)

役員歴 支部長・綱紀委員
本会理事・制度対策特別委員

表彰歴 日調連会長表彰受賞、東京法務局長表彰受賞



石 川 龍 彦 殿
(湘南第一支部)

平成27年1月23日 ご逝去(享年71歳)



宮内洋行殿
(横浜北支部)

平成27年1月29日 ご逝去(享年74歳)



大野昭治殿
(横浜南支部)

平成27年3月7日 ご逝去(享年89歳)

役員歴 支部長・常任理事・本会副会長

表彰歴 日調連会長表彰受賞、東京法務局長表彰受賞

財務部からのお知らせ

国民年金基金

将来のために国民年金基金に加入しましょう！

国民年金基金は、自営業の方やフリーで働く方がサラリーマン並の年金を受け取れるようにするための公的な年金制度です。

メリット

所得控除の対象となり、所得税や住民税が軽減されます。

少ない掛金・自由なプランで始められます。

加入後もライフサイクルに応じて月々の掛金を増減することもできます。

申込書など
詳しくは

土地家屋調査士国民年金基金ホームページ

または [フリーダイヤル](#) へ

(本会ホームページのトップページ左下バナーからもリンクしています)

土地家屋調査士国民年金基金フリーダイヤル **0120-145-040**

編 集 後 記

先日、桜木町にある三幸苑のチャーメンを食べに行きました。横浜に生まれて50数年、噂には聞いていましたが、食べたことはなく、函館生まれの妻と、物見遊山に出掛けました。パソコンで調べると、行列は必至とあったので、開店時間にあわせて行くと、既に10数人が並んでおり、慌てて並びました。席に着くと直ぐに、チャーメン・餃子・タンメンと忘れてはいけないビールを頼みました。チャーメンは、ラーメンをチャーハンのように炒めたようでした。中華ヤキソバとはまったく違う味で、つかみどころのない味です。ラー油+醤油をかけると、まあまあいけました。タンメンは、ニンニクがかなり効いていましたが、私が好きな中太平打ち麺、餃子もさっぱりしていました。でも一番美味しかったのは、昼間のビールでした。(クイック・タカ)

野球好きの私は、子供の頃からのジャイアンツファンである。が、土地家屋調査士になってからはベ이스ターズも応援するようになった。但し、ジャイアンツ対ベ이스ターズの時は、ジャイアンツを応援する。夏場になると友人達と横

浜スタジアムにナイター観戦に行くことが毎年の恒例になっている。蒸し暑い夜、ビールを飲みながら仲間とワーワー言いながらの観戦は最高！と言いたいところだが、酒の飲めない私は、騒ぎ疲れ果てた酔っぱらいの友人達を、家まで無事送り届ける役目の運転手である。

(西野 稔)

平成18年位からMicrosoft excelによる報酬額計算ソフト(鹿児島会・山下昇さん作・有料)を使っていましたが、最近Microsoft Accessによる報酬計算ソフト(東京会・小野孝治さん作・無料)を使い始めました。どちらも基本となるソフトexcelまたはAccessが必要ですが、Accessは若干金額が高く、単独での利用頻度が低いのが難点です。どちらが便利と感じるかは人それぞれですが、紙の請求書で不便を感じている方は一度試されてはいかがでしょうか。どちらも事件簿を作成できます。試しに使うならexcelもAccessも無料の試用版があります。

(小松崎 仁)

お詫び

神調報冬号 (No.242)
15頁 右側下から4行目

減殺 → 現在

広報担当副会長	朝 岡 道 久		
広 報 部 長	中 川 裕 久		
広 報 部 次 長	上 田 尚 彦		
広 報 部 理 事	星 野 隆 夫		
広 報 部 理 事	三 浦 正 樹		
広 報 部 理 事	野 口 謙		
支 部 広 報 員	川 又 康 司	後 藤 宏 史	
	小松崎 仁	面 野 稔	
	内 田 博 之	大 貫 公 彦	
	豊 藏 康 之	三 枝 慎 一 郎	
	深 瀬 光 正	島 村 賢 靖	
	福 島 誠	小 田 靖	

発 行	神奈川県土地家屋調査士会 横浜市西区楠町18番地 TEL (045)312-1177(代) FAX (045)312-1277 E-mail info@kanagawa-chousashi.or.jp
発行者	神奈川県土地家屋調査士会 会 長 岩 倉 弘 和
印刷所	株 式 会 社 コ ン バ ス 厚木市森の里青山14-1 TEL (046)250-1005